

解答

一

- 1 (1) ウ
(2) エ
- 2 久しぶりの公式戦勝利を喜んでいる。
- 3 (1) 夏の大会が過ぎてからの入部
(2) 引け目／後ろめたさ
(3) 同期
(4) さっぱりと坊主頭になったこと
だれよりも早くグラウンドに出て準備をしたこと
最後まで部屋に残るようにしたこと
- 4 うれしくて
- 5 ウ
- 6 58 (行目)

二

- 1 a イ b エ c ウ d ア
- 2 ア
- 3 (1) エ
(2) イ
- 4 ① 思いやりを求める
② 心の鎧
③ 他人のこと／を思うこと
- 5

三

- ① くちょう ② けいてき ③ がんそ ④ しちゅう ⑤ おが〔む〕

四

- 1 降参 2 供〔える〕 3 破片 4 模写 5 操縦

解説

一

- 2 ―線部2の前にある、「こういうとき」とは、久しぶりに公式戦で勝利をしたときのことを指しています。ゴキゲンの顔がゆるんでいるのを見て、おれはゴキゲンが久しぶりの勝利を素直に喜んでいると思ったことがわかるので、これらの内容を書き表します。
- 4 擬人法とは、人間以外のものを人間に見立てる表現技法のことです。本文の終わりにある「ほんとうにそうだな、」ではじまる段落に「うれしくてうれしくて、身体の細胞の一つ一つが喜んでいる。」という記述に擬人法が使われているので、「うれしくて」を抜き出します。

二

- 3 (1) ―線部2の前で、「タテ軸」と「ヨコ軸」について説明しています。日本人の多くは、抗しがたい大自然や「見えない大きな力」神仏への深い畏敬の念を持って暮らし、何か行動するとき、見えない力、神仏の目に照らしてみるといふ判断の「タテ軸」を持っていたといふ内容から選択肢エが選べます。
- (2) 「一方、そんな」ではじまる段落の後に「ヨコ軸」の説明があります。周りの人間関係に感謝の気持ちを馳せるといふ、集団主義文化の日本社会で育まれてきた判断が「ヨコ軸」であることがわかるので、選択肢イが選べます。